The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	現代住宅におけるヴォリュームと外部空間の構成類型に関する研究
Author(s)	川北, 健雄
Citation	大阪大学, 1997, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3129253
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【 90 】

氏　　名	川　北　健　雄（かわきたたけお）
博士の専攻分野の名称	博　　士（工　　学）
学 位 記 番 号	第　12863　号
学位授与年月日	平成 9 年 3 月 18 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 名	**現代住宅におけるヴォリュームと外部空間の構成類型に関する研究**
論 文 審 査 委 員	（主査） 教 授　東　孝光 （副査） 教 授　笹田　剛史　　教 授　鳴海　邦碩

論 文 内 容 の 要 旨

この論文は，建築の形態構成に関する研究である。空間とそれを限定する諸要素の形態に対する実例分析を通して，複数の事例間に見られる構成上の共通性を類型化して取り出している。具体的な分析対象としては，建築家によって設計された現代日本の独立住宅を取り上げ，特に全体的なヴォリュームと外部空間の構成に焦点を当てた形態分析を行っている。建築形態の多様性の中に潜在する共通部分を構成類型として顕在化させ，それを設計の際にも参照可能な形の語彙として明示することを目的としており，以下の 6 章から構成されている。

第 1 章では序論として，研究の目的と意義，および既往研究との関連と本研究の特色について述べている。

第 2 章では，形態構成および類型に関わる諸問題について既存の文献をもとにした考察を行い，特に本論文では構成類型をどのような概念として捉え，また，どのような視点から考察するのかを明確にしている。また，論文中での論理展開に必要な，その他の主要な用語の定義を行っている。

第 3 章では，建築を構成する要素の内で最も基本的な要素であると考えられる，内部空間を含むヴォリュームの形態に関する構成分析を行っている。309の住宅事例の分析を通して，複数のヴォリューム要素からなる11の構成類型を抽出し，定義している。また，構成上の共通性から，これらの類型間の相互関係を明らかにしている。また，単独のヴォリューム要素からなる構成については，下位の 6 つの形態類型を抽出し，定義している。

第 4 章では，住宅敷地内の外部空間に目を向けた構成分析を行っている。ここでは，特に半限定空間という概念を，空間的な限定度の高い外部空間として定義し，この半限定空間自体の構成と，半限定空間を含めた全体配置の構成とを分析している。147の住宅事例を分析対象として，半限定空間の構成に関する10の類型と，全体配置の構成に関する11の類型を抽出し，定義している。これら二種類の構成類型は，部分と全体という関係にあり，両者の対応関係についても明らかにしている。

第 5 章では，ひとつの設計事例における構成の成立過程を分析し，第 3 章および第 4 章でその類型を明らかにした三種類の構成と設計段階，および検討される問題の性質との間の対応関係を考察している。第 6 章では，本研究で得られた成果を総括し，今後の課題について述べている。

論文審査の結果の要旨

建築設計は，創造的な行為であるとともに，多くの既存知識を様々に組み合わせて問題を解決してゆく作業としての側面を合わせ持っている。この論文は，現代建築の多様な形態の中に潜在する共通部分を構成類型として顕在化させ，それを形の語彙として明示して集積し，設計の際にも参照可能な既存知識として利用されることを意図したものである。主な研究成果は，以下のように要約される。

(1) 様々な建築形態を表層的表現の背後にある構成へと抽象化して捉えることによって，相互の比較分析を可能にし，それらの共通性を基本として類型を抽出するという，一連の分析手法を新たに考察するとともに，これを現代住宅の実例分析に適用して，その有効性を検証している。

(2) ヴォリュームの構成に焦点を当てた分析からは，複数の要素によるものと単独要素によるものを合わせた12の構成類型の存在を実証している。また，これらの類型間の相互の関連性を示している。

(3) 外部空間の構成分析にあたっては，空間的な限定度の高い部分を他と区別することを可能とする半限定空間の概念を新たに定着し，実例分析を通して，10の構成類型が存在することを実証している。

(4) 外部空間については，さらにヴォリューム要素と面要素，半限定空間，半限定空間以外の外部空間，敷地境界線という構成要素の相互関係の分析から，全体配置の構成に関する11の類型の存在を実証している。また，これらの類型と半限定空間の構成類型との対応関係を明示している。

(5) 設計事例の分析からは，ヴォリュームの構成，半限定空間の構成，全体配置の構成のそれぞれの成立過程を明らかにし，また，それらと設計段階ごとの検討問題との間に，構成の種類ごとに異なった対応関係が存在することを示している。

以上のように，本論文は，建築形態の構成上の共通性を類型として抽出する方法を新たに考案するとともに，実際にそれを現代住宅の実例分析を通して，多くの構成類型が存在することを明らかにしている。また，これらと設計過程との基礎的な対応関係についても考察を発展させており，設計方法論，建築意匠論の分野に寄与するところが大きい。よって，本論文は博士論文として価値あるものと認める。